



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月10日

上場会社名 スターゼン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8043 URL <https://www.starzen.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横田 和彦  
 問合せ先責任者(役職名) 財務経理本部長 (氏名) 森上 倫輔 (TEL) 03-3471-5521  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	211,174	14.4	3,461	0.9	4,367	△5.1	3,056	△5.0
2022年3月期第2四半期	184,615	7.9	3,431	34.8	4,604	26.7	3,216	0.7

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 3,377百万円( 8.0%) 2022年3月期第2四半期 3,126百万円( △15.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年3月期第2四半期	円 銭 156.89	円 銭 —
2022年3月期第2四半期	円 銭 165.25	円 銭 —

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年3月期第2四半期	百万円 159,652	百万円 66,136	% 41.5
2022年3月期	百万円 142,428	百万円 64,001	% 45.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 66,319百万円 2022年3月期 64,179百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 65.00	円 銭 65.00
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 65.00	円 銭 65.00
2023年3月期(予想)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 65.00	円 銭 65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	390,000	2.2	6,800	△1.5	8,400	△8.4	5,700	△4.8	292.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	19,522,552株	2022年3月期	19,522,552株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	35,605株	2022年3月期	47,161株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	19,479,097株	2022年3月期2Q	19,463,989株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会資料の入手方法)

当社は、2022年11月28日(月)にアナリスト向け決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、景気に緩やかながら持ち直しの動きが見られました。しかしながら、世界的な金融引締め等による海外景気の下振れが我が国の景気を下押しする可能性があり、また物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響も予想され、先行きについては不透明な状況が続いております。

食肉業界は、食肉消費が落ち着きを見せ始めるとともに食肉輸入価格や飼料価格、エネルギーコストが高騰しつづけるなど、厳しい環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループはコロナ禍においても品質管理ならびに衛生管理を徹底するとともに柔軟な勤務体制等の対策を講じ、社員の安全確保に配慮しつつお客様のご要望にお応えしてまいりました。

また、『「収益力強化」に向けた「体質改善」』のテーマのもと、さらなる成長を遂げるための施策に取り組んでまいりました。新たな取り組みとしては、株式会社大商金山牧場と資本業務提携契約を締結いたしました。本資本業務提携をきっかけに互いの商品をそれぞれのネットワークを通じて販売することや、商品の共同提案、将来的には両社の拠点・機能・人的資源の共同活用による事業効率化等を図り、ひいては両社の企業価値向上を目指します。加えて、日本屈指の輸出認定工場である(株)阿久根食肉流通センター及びスターゼンミートプロセッサー(株)阿久根工場ビーフセンターの拡張工事が完了し、今後、牛肉の輸出を拡大してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は211,174百万円（前年同四半期比14.4%増）、営業利益は3,461百万円（前年同四半期比0.9%増）、経常利益は4,367百万円（前年同四半期比5.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,056百万円（前年同四半期比5.0%減）となりました。

事業部門別の営業概況は、次のとおりです。

#### <食肉関連事業>

食肉関連事業の売上高は209,830百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

また、部門別の業績は次のとおりです。

#### (食肉)

国内事業は、国産食肉の販売が堅調に推移したことから取扱量は前年同四半期を上回りました。売上高は、取扱量の増加に加え輸入食肉の国内相場上昇等により前年同四半期を大きく上回りました。売上総利益は、品目ごとに明暗が分かれる結果となりましたが、全体では前年同四半期を上回りました。

また、カテゴリー別の業績は次のとおりです。

国産食肉は、各畜種ともに販売が堅調に推移し、取扱量、売上高ともに前年同四半期を上回りました。売上総利益は取扱量の増加に加え、国産牛肉相場が前年同四半期を下回る水準で推移したことや、観光地・行楽地での外食需要の回復、加えて販売機会ロスの削減や早期販売を意識した在庫コントロールが功を奏し前年同四半期を大きく上回りました。

輸入食肉は、輸入価格高騰等の影響から鶏肉の取扱量が減少したものの、牛肉で取扱量を確保し、全体の取扱量は前年同四半期比横ばいとなりました。売上高は、国内相場が高値推移したことから前年同四半期を大きく上回りました。売上総利益は、牛肉を中心に前年同四半期前半好調の反動や輸入価格高騰の影響を受けたものの、需要に合わせた調達の徹底やコスト上昇分を可能な限り販売価格へ転嫁したことなどから全体では前年同四半期比横ばいとなりました。

輸出事業は、欧州や台湾向けを中心に好調に推移したものの、米国向けが牛肉の低関税輸入枠超過による関税引き上げの影響で低迷したこと等から輸出重量は前年同四半期を下回りました。売上高は輸出単価の高い欧州向けが好調だったことなどから前年同四半期を上回りました。

これらの結果、食肉部門の売上高は165,818百万円（前年同四半期比13.5%増）となり、売上総利益は前年同四半期を上回りました。

#### (加工食品)

加工食品は、一部取引先向けのハンバーグ商品群で取扱量が減少しましたが、食肉スライス商品、ローストビーフ関連商品等の販売が堅調に推移し、全体では取扱量、売上総利益ともに前年同四半期を上回りました。売上高は、原材料コストやエネルギーコストの上昇を踏まえた商品価格改定等により36,986百万円（前年同四半期比20.7%増）と前年同四半期を大きく上回りました。

(ハム・ソーセージ)

ハム・ソーセージは、外食向け商品の販売が回復傾向で推移しましたが、小売業態向けの販売が落ち着きを見せ始め、取扱量は前年同四半期比横ばいとなりました。売上高は加工食品と同様に商品価格改定により6,031百万円(前年同四半期比8.4%増)と前年同四半期を上回り、売上総利益も販売条件の変更等により前年同四半期を上回りました。

(その他)

その他の取扱品につきましては、売上高は993百万円(前年同四半期比4.2%増)となりました。

<その他の事業>

その他の事業につきましては、売上高は1,343百万円(前年同四半期比0.6%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べて、16,153百万円増加し、109,725百万円となりました。これは、主として商品及び製品、前渡金が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて、1,076百万円増加し、49,906百万円となりました。これは、主として賃貸不動産、機械装置及び運搬具が減少したものの、投資有価証券、無形固定資産が増加したことによるものであります。

この結果、総資産では、前連結会計年度末に比べて、17,224百万円増加し、159,652百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べて、7,557百万円増加し、62,677百万円となりました。これは、主として短期借入金、買掛金が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて、7,532百万円増加し、30,838百万円となりました。これは、主として長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計では、前連結会計年度末に比べて、15,089百万円増加し、93,515百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて、2,135百万円増加し、66,136百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月12日付け公表の「2022年3月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,172	11,792
受取手形及び売掛金	31,533	30,452
商品及び製品	32,115	43,848
仕掛品	437	505
原材料及び貯蔵品	2,294	2,575
前渡金	12,218	15,714
その他	3,811	4,847
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	93,572	109,725
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,896	12,788
土地	10,531	10,531
その他（純額）	5,417	5,378
有形固定資産合計	28,845	28,697
無形固定資産		
その他	1,952	2,521
無形固定資産合計	1,952	2,521
投資その他の資産		
投資有価証券	15,940	16,699
その他	2,091	1,987
投資その他の資産合計	18,032	18,686
固定資産合計	48,829	49,906
繰延資産	25	21
資産合計	142,428	159,652

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,953	19,117
短期借入金	10,847	15,063
1年内償還予定の社債	2,100	2,100
1年内返済予定の長期借入金	9,589	11,663
未払法人税等	1,825	1,232
賞与引当金	1,652	1,726
その他	12,151	11,772
流動負債合計	55,119	62,677
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	13,643	21,044
退職給付に係る負債	2,051	2,059
債務保証損失引当金	190	237
その他	2,421	2,497
固定負債合計	23,306	30,838
負債合計	78,426	93,515
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,658	11,658
資本剰余金	12,508	12,506
利益剰余金	38,101	39,891
自己株式	△105	△79
株主資本合計	62,163	63,977
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,741	1,820
繰延ヘッジ損益	441	483
為替換算調整勘定	△145	47
退職給付に係る調整累計額	△20	△9
その他の包括利益累計額合計	2,016	2,342
非支配株主持分	△177	△182
純資産合計	64,001	66,136
負債純資産合計	142,428	159,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	184,615	211,174
売上原価	167,049	192,683
売上総利益	17,566	18,490
販売費及び一般管理費	14,134	15,029
営業利益	3,431	3,461
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	64	65
持分法による投資利益	420	421
不動産賃貸料	212	130
受取保険金及び配当金	298	321
補助金収入	263	280
その他	171	193
営業外収益合計	1,431	1,414
営業外費用		
支払利息	124	272
不動産賃貸費用	67	61
その他	66	174
営業外費用合計	258	507
経常利益	4,604	4,367
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	41	2
特別利益合計	41	2
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	5	7
減損損失	8	13
特別損失合計	15	21
税金等調整前四半期純利益	4,630	4,349
法人税、住民税及び事業税	1,281	1,260
法人税等調整額	134	38
法人税等合計	1,416	1,298
四半期純利益	3,214	3,051
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,216	3,056



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	3,214	3,051
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14	79
繰延ヘッジ損益	△115	43
為替換算調整勘定	47	163
退職給付に係る調整額	6	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	33
その他の包括利益合計	△88	325
四半期包括利益	3,126	3,377
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,128	3,381
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

当社グループは、生産肥育から食肉の処理加工、製造、販売に至るまでの事業を主に国内で行う「食肉関連事業」を中心に事業活動を展開しており、報告セグメントは「食肉関連事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。